子育て支援センター

育児日誌　その 233

「りんごがひとつ」

ふくだすぐるさん作・絵の『りんごがひとつ』という絵本があります。あらすじを紹介します。

りんごがひとつ落ちていました。おなかをすかせた動物たちが見ていると、おさるがりんごをとりました。おさるはどんどん逃げます。動物たちもどこまでも追いかけます。途中、ユーモアのあるおもしろいー場面も。かんかんに怒った動物たちにおどかされて、おさるはとうとう追いつめられます。でも、よく見るとおさるの腕には２匹の赤ちゃんがいたのでした。おさるはりんごをさし出しますが、動物たちは「やれやれ」と帰っていきました。

りんごをひとりじめするなんて。なんて意地悪なおさるなんだろう！という思いが、赤ちゃんを見たとたん「なんだ、そういうことだったのか」と納得して気持ちがすーっとおさまりました。

長女が小学２年生の時、校外学習で明石の魚の棚でお買い物をしてきました。どんなものを買ってきたのかなと思っていたら、お土産はみかんと子ども用のお箸２膳でした。みかんが大好きなのでみかんは納得。お箸２膳は…？子ども用だからもしかしたら長女と妹用かなと思って見ていると、お箸を欲しがる妹にお箸をわたしません。妹が何度お願いしてもお箸をあげない長女に、いつものけちんぼと決めつけて「なんで妹にあげないの！」とつい言ってしまいました。すると長女が「これはパパとママにお誕生日にあげようと思って買ってきたの」と一言。「あーそうだったのか」と長女のサプライズを台無しにしてしまったことをとても反省しました。

なんでこんなことをするのだろう？と思える子どもの行動も、その理由を知ることで関わり方が変わったり、怒らなくてすむこともあります。子どもの気持ちを理解したうえでかけた言葉と、そうじゃない言葉では子どもの受け止め方も変わるかもしれません。子どもの行動の裏には子どもの思いがあるということを忘れないようにしたいと思った出来事でした。